

小さなものの証し

妊娠4ヶ月に定期検診を受けた時のことです。医者は胎児の鼓動や動きを認知することができませんでした。また病院での二度目の超音波でも、このことは確実なものとなりました。私の赤ちゃんはもう死んでしまっていたのに、私はずっとお腹に抱えていたのです。最初のショックと悲しみの後、私は神様に流産せずにすんだことを感謝しました。そして私たちにとって重要なことを決断しました。私は赤ちゃんをそっくりそのまま出産して埋葬し、彼の尊い小さな体に十分な敬意と名誉を与えたいと願いました。

三日後の一九九三年二月五日、病院で分娩が行われ、私たちは赤ちゃんを導き出しました。彼はとても小さくて、私の手のひらに乗せることができるほどでした。小さな手足と耳も形を成しており、肋骨を数えることもできました。彼はその成長過程で完璧に形作られていたのです。でもへその尾がかたくねじれてしまっていて、生きて行くために必要な栄養をとることができなくなっていたのです。私はこの赤ちゃんの死が誕生前の奇跡の証拠となったことを誇りに思います。看護婦さんたちが病

室に入ってきて驚きました。こんなに小さな赤ちゃんが生まれたのを見たことがないのです。彼は、胎児は人間の縮小型であり、後は時間さえあれば立派に大きくなれるということを証明してくれました。出産の三日後、私たちは赤ちゃんを埋葬しました。彼の小さな体は小さな棺の中に入れられ、小さなお墓の中に降ろされました。私は子どもの本にある象の話を思い出しました。その象は小さすぎて見えない人達を一生懸命守るので、**「どんなに小さくたって人は人なんだ」と繰り返しながら、これらとても単純で深みのある言葉ですが、今日では多くの人々がその中にある真実を認識していません。**

私は、多くの妊娠中絶合法化に反対する人達は二十年間も戦ってきて、疲れてしまったのではないかと思います。私がそうでした。でもこの体験は私の心を大きく揺り動かし、他の人達を再び動かすために発言しなければと思いました。私の赤ちゃんは12、16週目に中絶された多くの赤ちゃんと同じくらい大きかったです。私の手の上にいたのは「妊娠の結果」ではなく、本物の男の子だったのです。そして、愛され望まれていただけの理

由で、私の赤ちゃんはより人間らしく見えたのでしょうか。私達がずっと前から見たり読んだりしてきた誕生前の写真や記述は本物だったのです。あの「貴重な足」も本物でした。私の赤ちゃんの小さな足の足形を病院でとってくれて私にくれました。私は見てきました。そして、証言します。胎児は赤ちゃんだということを。
みんな再び、人間のいのち、特に最も傷つきやすく、最も寡黙である胎児のいのちの尊厳を守りま

子どもの本にある象は小さすぎて見えない人達を一生懸命守るので、「どんなに小さくたって人は人なんだ」と繰り返しながら。



しょう。私たちが繰り返し、「人間はどんなに小さくても人間だ」と主張していくことで、彼等の声の代わりに、私達の声が耳を傾けてもらえますように。

CCL Family Foundation 5-6/93

ある新聞記事

「私達は中絶賛成派のために祈らなくてはなりません。神が真実の前に彼らの眼を覚ませ、神の愛の前に彼らの心を開かせるように」

これから述べる話は、聖書の中の「私の王国に入るためには小さな子どものようにならなくてはなりません」という美しい一節が真実であることを確信させるものであります。この記事は、ワシントンで行われた中絶賛成派の行進についてのある新聞に報じられていたものです。行進のために参加していた6歳ぐらいの小さな子どもが、あるレポーターにインタビューされた時のことです。レポーターがその小さな女の子に、何故そこにいるのかと訪ねたところ、その子は「うん、ママと一緒に中絶賛成のために行進するの」と答えました。レポーターは次に中絶とは何かを知っているかとその子に訪ねたと

ころ、「赤ちゃんを殺すこと」と言う答えが返ってきました。その答えを聞いてレポーターは少し驚き、それは良いことかと思いたところ、その子は「ノー」と答えました。直後、母親がその子の手をつかみ、レポーターに「このことについては私の上の子とも達の方がずっとよくわかっていきます」と言い、急ぎ足で去って行きました。この小さな子どもはとて純真で、とても単純で、とても神に近いため、ちゃんと真実を知っていたのです。

この記事の話は、中絶賛



その瞳で見つめてる。

子どもは清い。

モリー・ケリー

成派の人々の憎悪と盲目さを示しています。私達は彼らのために祈らなければなりません。神が真実の前に彼らの眼を覚ませ、彼らの心を神の愛の前に開かせるために。子ども達は神からの最も貴重な贈り物なのです。私達は子ども達を大事に育て、守り、愛していかななくてはならないのです。

成人幹細胞を使用した心臓治療に成功

デュッセルドルフ心臓医科大 学病院の研究者は、世界で始めて骨髄幹細胞を使って人間の心臓治療に成功した。ポド・エツカード・ストローワー教授は、63歳の男性患者の骨盤から幹細胞を摘出し、それを患者本人の冠状動脈に注入した。幹細胞は心臓発作によってダメージを受けた部分に広がり、健康な筋肉細胞に変わった後、鼓動を始めた。名前が明らかにされていないが、この男性は重度の心臓発作に見舞われ、心筋機能の4分の1を失なってしまった。その4日後、幹細胞の手術を受けた。「移植手術の10週間後にはダメージを受けた部分の大きさは3分の1位にまで小さくなり、心臓機能そのものも明らかに改善しました。」とストローワー教授は述べた。「幹細胞療法は、今までの治療法すべてを合わせた以上に成功率が高いと思います。重

stem cell - heart

度の心臓障害患者でさえも、心臓移植を待ち望み続ける代わりに、自分の幹細胞を使って治療することが可能になるでしょう。」

「我々の研究結果により、倫理的に問題となっている胎児の幹細胞を使用せずにこの手術が成し遂げられるということがわかりました。」とストローワー教授は語った。ドイツは人間の胎児実験を禁止しており、この新たな研究の成果を受け、非倫理的でない成人の幹細胞研究の進歩にさらなる拍車がかかるであろう。

禁止されるべき非倫理的なヒト胚クローニング

ヒトクローンを作ることは、どうしてそんなにいけないのであろうか？ 科学研究者達は、自分等はただ細胞の塊をいじっているだけで、人間を作り出しているわけではない。おまけに、これらヒト細胞をクローンすることによって、医療に多大な恩恵をもたらす事が約束されていると言つ。

「クローニングでは人間の胚が犠牲になるから禁止するべきなのだ」と言う人もいる。しかしア

メリカではこれまで30年間、中絶が許されてきている。人の生命のごく初期だけを保護し、その後の9ヶ月は保護しない、というのはおかしいではないか？

ある意味、クローニングとは「死の文化」の延長線上にある。例えば、母親の胎内に多数の赤ちゃんが宿ったときに、その夫婦は赤ちゃんを「選択して減らす」事を勧められる。

「医師による自殺補助」に関するオレゴン州の法律では、医師

は、死を招くために致死量の薬を処方しても良い、となつていく。それに、「時には必要だから」という理由で、パーシャル・バース・アポーションという陰惨な方法を我々は許している。

自分達の生活の質を保つ方法として、死は、明らかに受け入れられてきている。

そうであるなら何故、ペトリ皿の中で研究者が生命の実験をするに大騒ぎするのであろうか？ なんといつても科学こそ

が、生命とは奇跡であると教えてくれたのではなかったか。超音波のお陰で、母親は自分の胎内で新しいのちが育っているのが見られる。新生児医療の進歩とは、妊娠16週目で生まれてしまった赤ちゃんでも生き延びられるということである。そしてマイクログ科学のお陰で、子宮内の赤ちゃんの手術も可能になった。

実際、人間のいのちの最初の形が受精卵であることを教えて

くれたのは科学研究者達なのである。その受精卵には、あなたの指紋のように無二の個別のDNAパターンがあり、それらが新しいいのちの性別を決めるということを、科学者達は分かっている。そう、胚組織の実験をしている研究者達は、それが人間であることをよく分かっている。そしてそれによって落ち着かないのである。だからこそ彼等は「胚盤胞」という言葉を使い、「生殖的クローニング」(子宮に戻す目的のもの)と「治療的クローニング」(初めから犠牲になる為のもの)という言葉とを区別して

使うのである。

資本主義経済における自由企業制の名の下で、アメリカは、利益を追求する企業が自由にヒトクローンを作り出し、それを自由に破壊し、その組織を自由に売却し出し、その細胞を自由に売却出来るようにしている。育ちゆくはずの赤ちゃんは、現代では、利用され殺されても良い、ということである。

現代の死の文化を非難する教皇ヨハネ・パウロ2世やマザーテレサや他の精神的リーダー達は、どの人間にも本来備わっている尊厳があり、誰もが受精時から自然に死ぬまで生きるに値する、と呼びかける。非宗教的な著述家であっても、人間の尊厳を否定したり人間を利用するのは間違っている、と賛同している。間違いと呼ぼうが悪事と呼ぼうが、それがクローニングや胚を犠牲にする研究が行き着く先である。人間のいのちを致命的に軽視しているのであるから、新しい人間とは誰か？ 紹介しよう、この「細胞の塊」と呼ばれているものは、神の形に似せて造られた、それ故に神聖な「人間」である。金持ちでも貧乏でも、黒人でも白人でも、年寄りでも若者でも、誰でも神の子ども

である。近代化した世界は、このシンプルな真実から、なんとかけ離れてしまったことか。

ウォール・ストリート・ジャーナル紙の「アメリカ企業のクローン産業に対するヨーロッパの非難」という記事(11月27日)の中でゴータム・ナイイクは、バイオテクノロジーにおいて倫理よりも欲を重視した結果、アメリカが同盟国との協調からいかにはずれてしまっただかを指摘している。「そのような研究に対する国内の政治家や国民の不安にも関わらず、アメリカはクローン研究開拓の先駆者になっっている。ヨーロッパの他国々は、クローニングやそれに連なる幹細胞研究に対して、いまだに敵対心を持っている。フランス、ドイツ、オーストリア、アイerlandは、ヒトの胚性幹細胞の基本的研究を許可していない」。

若年型糖尿病研究協会などの民間団体から資金援助を受けているひと握りの研究者達は、胎児を犠牲にする研究で多くの資金をもらっている。その間、他の研究者達は、毎年何キロメートルも廃棄されているへその緒などを使った非胚性資源の研究で成果を上げていく。テクノ戦争は激しく、胚を犠牲にする研究者達は自分の方針を「治療研究」という高等な善の名の下に正当化している。しかし信心深い人達は分かっている。公正で、生命を与えて下さる神に勝

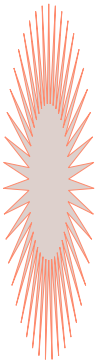
る高等な善などない事を。人のいのちを尊重することで、私達は神を尊重している。人間の尊厳への侵害をこのまま許してしまつたら、この小さな幼い赤ちゃん達の次に苦しむのは誰になるだろう？ 老人か、病人か、虚弱者か、障害者か？ それとも受刑者が貧民が落ちこぼれか？

アメリカは、すべての人間のいのちに対する尊重の念を復活させるべきである。沢山の子ども達が、「女性の生殖に関する権利」という名の下で死んでいつている。更に多くの子ども達を「治療研究」という名の下で死なせてもいいのだろうか？ 恥ずかしいことに、アメリカが人間のいのちを守る法律をいつまでも作ろうとしない事に他の国々は愕然としている。

あなた方の代表者に呼びかけ、胚を犠牲にする研究や胚性クローニング禁止によって人のいのちを守って下さいと頼もう。そういう非人間的で非倫理的な研究は、この国のどこでも許してはならない。

クレア・ルール
シンシナティ新聞

2002年1月3日



クローニングも

正確なコピー不可能

「サイエンス誌」に掲載されたある論文に、胚を用いたクローニングは危険で、クローニングで生き残った胚の2%に隠れた欠点を生じさせると書かれています。ハワイ大学の研究者がクローンねずみを作り、そのねずみに問題があることを発見しました。「クローニングで作られた動物が正常に見えても、潜在的な問題をばらんでいるかもしれませぬ。」と研究者の一人、柳町隆造氏は述べました。

柳町氏と阿久津秀徳博士は、マサチューセッツ工科大学のホワイトヘッド研究所のルドルフ・ジーニッシュ氏を初めとする科学者たちと共同研究しましたが、阿久津氏によればその研究は、「クローニングはもっと慎重に行なわなければならない。クローニングでは正確なコピーは決してできない。特に初期の段階では非常に不安定である。」ということを証明しています。科学者たちは、クローンねずみが生まれたとき、胎盤異常、体重の増加、呼吸の問題など種々の異常な症状に気づきました。さらに、大人になるまでに血液学上あるいは免疫学上の問題で死ぬ

ねずみもいると彼らは話しました。

柳町氏は、スター誌に「クローン技術は現在、非常に効率が悪く、胚の98%が死んでいる。クローニングが行なわれた胚の大多数が、DNAのメチル化の広範囲にわたるエラーで死ぬ可能性が非常に高い。生まれるものは例外で、それもいくらかの問題を持っていて可能性がある。完全に正常なものでない可能性がある。」と発表しました。「私たちは、このクローニングを安全なものにできるかどうかから安全であることを希望しているだけである。たとえクローニングが安全になったとしても、人間にとっては安全ではない。動物にとつてさえ、安全ではないのである。」と、彼は結論として述べました。

Life Site Daily News July/2001



クローン技術の胚は98%死んでいる。

国家による家族への残忍行為

「息子の死刑執行を見届ける際、母親が泣き叫ぶ声は何にも聴えようがありません。あのよな音は他に聞くことは出来ないうでしょう。とにかくすさまじい泣き声です。耳について離れません。部屋中に響きわたるのです。一度聞いたら、まず一生忘れる事はできません。」メディアは、テキサス州で50人以上の公開死刑を目撃している。ナショナル・パブリック・ラジオ、二〇〇〇年十月放送。

8月15日、テキサス州の高等裁判所が死刑執行差し止め命令を出したのは、レナ・ピースリーの息子の刑執行まであとわずか4時間足らずの時であった。ナポレオン・ピースリーは死刑囚監房に戻り、今は最終結果を待つ身である。4月および5月に、ジョージ・チャールズ、ダイアン・スコットの兄(弟)は2度目の試みであるカテーテルをすでに腕に入れられており、今にも死の注射針を刺すばかり、というところで裁判所からの延期命令が下された。6月14日に国が3度目に刑の執行を試みたものの、またしてもジェイ・スコットの刑は先延ばしになった。

死刑制度が与える残虐性は、司法の名のもとにそのいのちを弄ばれる囚人に限られたものではない。刑を宣告された囚人の親族もまた、この低俗な処罰制度によって必ずや引き起こされる希望と絶望の間をさまようことになる。ベッティ・ロバートソンは一九九五年に次のように記した。「もし息子が処刑されれば、私の一部も彼と共に死ぬでしょう。その恐怖と常に戦いながらこの8年間生きて来ました。これこそ死刑制度の本当の意味での拷問です。」ブライアン・ロバートソンはテキサス州の死刑囚監房で13年間過ごした後、昨年の8月に処刑された。

無実の人に刑を執行してしまふ危険性があるとして、米国では最近社会的な不安が募っている。しかし、政府が自分たちの愛する人をいつか処刑するということを知りながら、何年も何年も生き続ける「無実」の犠牲者たちを気遣う声はほとんど聞かれない。

ジョン・ピヤードは9月12日にオハイオ州の電気椅子で処刑されることになっている。8月20日の温情審問の場で母親は減

刑を求めた。「私の体、心、魂、すべてを持ってお願いします。どうか私の息子を殺さないで下さい。」彼女はその期待を持ちつつ18年間生きています。インディアナ州ではさる3月、息子のジェラルド・ビビンズと数時間に渡って最後の面会をした後、母親は自殺を図った。その24時間後、医療技術によって集中治療室で母親は生かされる一方、国の死刑執行室で息子は処刑された。ジョゼフ・キャノンは18年間、一九九八年に処刑された。第一回目は、腕に刺した注射針が抜け落ちた為失敗に終わった。関係者は直ちに立会人室から退出させられたが、その中にジョゼフ・キャノンの母親もいた。その後息子処刑されたのを見て、悲嘆のあまり崩れ、病院に運ばれてしまった。

政治家は 多くの場合「家族の価値」を声高に強調する。報復措置的な死刑執行により、愛する人を殺人によって奪われた人々が「終止符」を打つことができ、と常に提唱しているが、それは国に親族を殺される囚人の家族が、刑の執行後い

かにその死を克服するかを方向づけすることのないまま行われている。死刑執行は勿論、遺族に精神的安堵を保証するものではないし、仮にしたとしても、それはつまり殺人犠牲者の大半はこの国が提供する不穏な治療法を受けられないという事を意味する。米国では毎年何千もの殺人が犯されているが、そのほんの数パーセントだけの犯人がこの象徴的な処罰を受けている。国は、制度が「悪の中の悪」を選び出している、と主張し続けるであろう。だが実際には死刑囚は、恣意性、差別、過ちに象徴される制度の元で死の選別を受けている。この過ちと不正は被告人のみならず、その家族にも影響を及ぼす。この死刑執行によって生み出されるものは何もなく、最終的に国が得るものももう一体の死体と悲しみに暮れる家族だけである。これは凶悪犯罪に対する建設的解決法を探るうとして責任ある政府の政策とは言えない。

人権侵害は様々な形で行なわれている。拷問と死刑は同種のものである。政府当局が個人を拘留し、居場所などを一切明らかにしない「失踪」という方法がもう一つである。「失踪者」の家族は愛する人の運命を知る事ができないという苦悩にさらされる。拷問にかけられるのだから

か？それとも死刑になるのだろうか？国連は「強制的失踪からの保護宣言」において、「失踪」は被害者のみならず、その家族にも「多大な苦しみ」を与える、と述べている。「市民的及び政治的権利に関する国際規約(ICCPR)」を順守しているかどうかを監視する専門組織である人権専門委員会もまた、精神的苦痛を与え、残虐で非人間的、品位に欠ける扱いを受けることになる。「失踪」は犠牲者のみならずその親族に対しても人権を侵害することにあたると認めている。

ICCPRの第23条において、家族は「社会および国から守られる」と述べている。それと同時に、規約の第6条においては、いくつかの国が死刑制度を維持する可能性を認めている。ただし、それを執行するには厳しい条件がつけられている。その内の一つで、米国が人権委員会に指摘されながらも敢えて無視しているのが、ナポレオン・ピースリーやジョゼフ・キャノンのような18才以下の青少年犯罪に対する死刑執行を明確に禁じている第6条の5である。彼らの処刑はつまり、第23条をも犯すことになる。

第6条の1に記載されているもう一つの規約は、生命の恣意的

剥奪の禁止である。自由の権利に關して人權専門委員会は、『恣意性』は『法律に反する』事と同

一視されるべきではなく、不適正、不公正、および予測性の欠落などを含んだより広い意味での解釈が必要であると述べている。

り殺人を認めている)に下された終身刑との別れ目、刑務所内の情報提供者による論争中の言葉だけであるというのも明らかに不公平である。

米国における死刑制度の不確かさには驚かされる。死刑宣告と終身刑の違いが、弁護人の腕次第であったり、犠牲者や被告人の人種や肩書き、検察側の手法、検察側地域の資源、あるいは陪審員が選択可能な宣告内容に十分に理解しているか、などにかかっているような国においては、すべての刑が第6条で禁止

している生命の恣意的剥奪を犯していることは疑いの余地がない。もしそうだとしたら、これらの処刑はすべて、「国家は家族を守る義務がある」という第23条を犯していることを意味する。

「私の身の上に取りこらなくて良かった。」と言っている私たちの間に立てられた壁のように聞こえるのです。トランプにたとえれば、私たちは配られたカードで勝負しているのです。みんな同じ数のカードしか持っていないのです。私たちは聖人ではないし、そして後光もさしていません。



(死刑関連ニュース)

障害児を育てている親達の気持ち

シェリー

いものなのでしょうか。

今日私はタイラーと一緒に過ごす生活について店の店員と話をしていました。彼女はとても感動していました。私たちが天国に行き、全ての障害がタイラーの人生から取り除かれた日には、私たちはみんな大きな喜びを知るでしょうと、彼女に話しました。そのとき、全ての障害が取り除かれるのは私たちがあって、タイラーの方が私たちが喜びを分かち合つのではないのだからかということが私の心に浮かびました。結局、神様の目から見れば、いったい何が美し

私は対処すべきことには全て対処し、するべきことは全てする本当に特別な人間だと、これまで何度も言われてきました。しかし私はごく普通の人間だといつも答えています。私は全ての善良な親達が生きているように、しなければならぬことをしているのです。しかしニールは特別な人間です。彼は私が知り得ると思つていた以上のことを私に教えてくれました。

ゲイル

何よりもまず、私の息子ベンの発育の遅れはとても重要なことで、彼がどのくらい好ましく、魅力的な人間であるかが私にはわかるから、彼を障害者とか発育の遅れた子としてではなく、人間として見てやってほしいと思います。

ジョディ

私はあなたとあまり変わりません。ですから、「私は特別な養護が必要な子ども親には決してなれそうもない。私にはとても辛抱ができない。」などと言つて、私との間に距離を置くとうとしないで下さい。あなたはあせ辞のつもりで言っているかもしれないが、私にはそれが、

ケント

マデリン

私が他の人に何かを頼むことができるかすれば、それは、「どうか私の言うことに耳を傾けて下さい。」ということでしょう。出来事や私の気持ちを私が話そうとすると、人々は話題を変えてしまいます。ある親にとつては、私たちが最悪の悪夢であることはわかっていきます。どの親も自分の子が「五体満足」でないかもしれないと心配しています。私たちが障害を持つ子ども親は、社会で「五体満足」だとみなされない子どもを抱えているのです。それで健常者の子どもを育てている親達から見ると、私たちは彼らが恐れている生活をしているのです。このことが他の親達の生き方を困難なものにしているのです。私が他の親達にお願いしたいことは、恐がらずに私の話を聞いてほしいということです。

ナンシー

私たちの子どもはまず、特徴や行動において多くの点で似たような子どもなのです。彼らは取り扱い説明書つきで生まれてきたのではないのです。だから私たちも一緒にやっていきながら学んでいるのです。

ジュディ

私は自分がダウン症の子を持つ母親になるとは思いもしませんでした。私はいつもダウン症の子を持つ人は特別で、神に選ばれた人だと聞いていました。私は特別な人でなく、また信仰を求めて祈っています。だから、その理論は私には当てはまらないのです。息子が生まれたときに、私の人生は終わってしまったと思いましたが、今、私はそのことが新しい意味を持つてると気づきました。私は今では立ち止まってバラの花の匂いを嗅ぐことがあります。私にはわかったのです。重要なのは、どのくらい知っているかということではなく、心のなかに何があるかということなのです。



苦しみのみではない

(Col 11:9-10/97)

資 料 紹 介

カラー・パンフレット

「203」

『デート』

男の子と女の子のためのガイド

同じガイドブックでも、事務所たよりで取り上げた『思春期のためのラブ&ボディBOOK』とは全く違うものです。デートのとき避妊をしましょう、妊娠すると大変だからと避妊の方法や器具を紹介しようとは思っていません。

思春期のデートでの愛(ラブ)は体(ボディ)ではないのです。体ではなく心・情緒的なことです。

デートは男の子も女の子も自分を高めるために、互いに知り合うために大切なものです。

『内容』

「デートですること」と「デートではいけないこと」

それぞれ7つあげてみました。ほかにも子ども達が気づいているものがあるかも知れません。もっとあげてみましょう。

申込は1種類だけでも、他のカラーパンフレットと組み合わせても自由です。右下の表を参考に！

[511] 赤ちゃん：最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬：ピル

注文：	1 - - - - - 5	1部 = ¥ 100
	6 - - - - - 20	1部 = ¥ 75
フルカラー	21 - - - 999	1部 = ¥ 50
	1000 - - 以上	1部 = ¥ 35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

最新のビデオ

「412」

【ポルノの害毒】

ユースセミナー7 費用：3800円+送料

* 紹介文は2002年7月号6ページ

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文 無料 + 郵送料

【カラー・パンフレット】

[201] 生か死 + 郵送料
 [202] 第二の処女生 + 郵送料
 [203] デート + 郵送料
 [204] どうするの? + 郵送料
 [205] "NO" という技術 + 郵送料
 [206] テイーンの出産コントロール + 郵送料
 [207] パージンの瀬戸際 + 郵送料
 [208] していませんか + 郵送料
 [209] 親権限と「10代の性」 + 郵送料
 [210] 貞節のすすめ + 郵送料
 [211] 中絶行為は女性を解放しない + 郵送料

【ポケット・サイズ】

[301] 若い生命「1セット=カード+人形」 30円 + 郵送料
 [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン 200円 + 郵送料
 [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス 500円 + 郵送料
 [305] 胎児の人権宣言カード 30枚=100円 + 郵送料
 [306] ミニソフィア Ace エース(税別) 7980円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

[401] 沈黙の叫び ... (VHS/Beta) 7000 + 郵送料
 [403] ビリングス・メソッド (VHS/Beta) 7000 + 郵送料
 [404] いのちーおくりもの (VHS) 13000 + 郵送料
 [407] 命美しいもの = one&only (VHS) 20000 + 郵送料
 [409] 聞こえる? 天使の鼓動 (VHS) 6000 + 郵送料
 [410] ピル先進国・英国からの警告 ... (VHS) 15000 + 郵送料
 [411] (コース・セミナー) エイズ時代の性倫理 ... (VHS) 3800 + 郵送料
 [500] (本) 生命問題に関する ... (カトリックの教え) 2987 + 郵送料
 [501] (本) 自然な家族計画 ... (ビリングス・メソッド) 1000 + 郵送料
 [503] (本) プロ・ライフの旅 300 + 郵送料
 [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ 1200 + 郵送料
 [505] (本) いのちをみつめて 500 + 郵送料
 [506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ) 660 + 郵送料
 [507] (本) 私の生命を奪わないで 2300 + 郵送料
 [508] (本) いのちの福音 1500 + 郵送料
 [509] (本) 小さき生命のために 1300 + 郵送料
 [511] (本) 赤ちゃん：最初の十ヶ月 ... 12ページ 100 + 郵送料
 [512] 本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて 300 + 郵送料
 [513] 本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント 500 + 郵送料
 [514] 本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう 300 + 郵送料
 [515] (本) 経口避妊薬：ピル 100 + 郵送料
 [516] (本) いのちの福音と教育 1470 + 郵送料
 [517] (本) フマネ・ヴィテ 300 + 郵送料

(本) フマネ・ヴィテ

カラーパンフレット

1 ~ ~ 30	1部 = 250円	1 ~ ~ 5	1部 = 35円
31 ~ ~ 100	1部 = 200円	6 ~ ~ 100	1部 = 25円
101 ~ ~ 以上	1部 = 150円	101 ~ ~ 500	1部 = 20円
		501 ~ ~ 以上	1部 = 15円

は 組
自 合
由 せ
で す

十代の性 (29)

質問：生まれてくる子が障害児だったら、本人がかわいそうです。きつといつか、なぜ自分を産んだのか責められるでしょう。それよりも事前に中絶した方がいいではありませんか？

答え：あなたは学校の勉強ができないからといって、両親を責めたりしますか？ 語学や音

Q & A

平和を破壊するいちばん恐ろしいものは墮胎です。なぜなら、子どもを殺すのはその子の母親自身だからです。…若い女性達は両親を恐れ、世間の人々を恐れるあまりに、墮胎することがよくあります。でも彼女たちを助けなければなりません。(マザー・テレサ)

楽の才能がないのを両親のせいになりますか？決してしてはならないし、そんな権利もありません。「完璧な自分」に産んでくれなかったと両親にあたるのは、あなたが子ども」の証拠に他なりません。

もし友達が下校途中に事故にあい障害者になったとします。病院へお見舞いに行つてあなたは何と声をかけますでしょうか。障害があると人生を楽しめないし幸せじゃないから死んだほうがいいと言ってしまうか？ 障害があるとわかつて生まれるよりも死んだほうがいいと言つても、結局は同じです。生まれる前でも後でも同じ人間に変わりないのだから。それよりも親友として彼を励まし、障害の現実とうまく向き合つようすすめるのではないのでしょうか。

億万長者だったらと願うことはありませんか？ でもそうじゃないからといってあなたは不幸でしょうか？ 幸せになるために人はみな、自分自身と与えられた環境を受け入れる必要があります。あるがままの自分を認め柔軟な生き方のできる人は幸せになれます。健常者と同じように、障害者も自分の運命と割り切つていかねばなりません。身体機能を十分に使えたらと切望するでしょうが、それがかなわないからその人が不幸とは言い切れません。

障害者が悲しみ泣くのも、健常者がそうするのも同じです。彼らも健常者と何ら変わりなく、喜んだり安心したり愛を感じるのです。人生の満足度や葛藤において障害者と健常者の間に境目があり差が生じる事はありません。障害者が健常者より幸せじゃないと想像するのは間違っています。多くの障害者や高齢者が家族に愛されて暮らし、自由に動き回れるだけが幸せな人生じゃないと実感しているはずですよ。

現代は出生前診断により障害があるからという理由で中絶はされなくなりましたが、母親の健康上の理由で相変わらず障害を持つっていると判明した子どもが中絶されているケースもあるようです。

(日本プロ・ライフ・コメント)

日本プロ・ライフ・ムーブメント事務所

〒780-0062

高知市新本町一丁目7-31

電話/Fax: 088-873-3619

e-mail: prolife@i-kochi.or.jp

http://www.japan-lifeissues.net

For English Speaking People /evening: Tel/Fax: 088-843-0406 Email: nvt56n@ps.inforiyoma.or.jp

会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円

一万円 五千元 一千元

無料: 毎月プロ・ライフ・ニュースレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さいいのちを大切に育みましょう。

事務所時間:

月一金 10:00 - 17:00

土曜日 休み

日曜日 休み

御送金

銀行: 四国銀行朝倉支店

口座番号: 0573553

日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局: 「郵便振替」

口座番号: 01660-5-39607

日本プロ・ライフ・ムーブメント

事務所便り

インターネットでサーフィンしていると毎日新聞7月10日の記事に目がとまりました。見出しは『学生向け性教育冊子が波紋 県保健予防課、知識必要/県教委、激し過ぎ / 群馬』となっています。導入は『厚生労働省所管の財団法人「母子衛生研究会」(東京都渋谷区)が作成した中学生向けの性教育冊子、思春期のためのラブ&ボディBOOK』が県内教育現場に波紋を広げている。人工妊娠中絶手術を受ける10代女性が増加する中、性に関する正しい知識が必要とする県保健予防課と、中学生には刺激的すぎると二の足を踏む県教委との主張がかみあわなかったため。『そして、本文は次のように続いている。』この冊子は今年3月、同研究会が全国の都道府県に希望数を確認したうえ、4月ごろから無料配布されている。県内では同課が市町村や県教委から希望数をとりまとめ、約8000部を各自治体に配布した。『群馬県は、幸いなことに最終的に配らないことになりましたが、あなたの都道府県ではどのようなことになったのでしょうか?各自で県の保健予防課に聞き合ってみましょう。あなたの子どもや孫の体が致命症を負う前に立ち上がり、ピルの危険性を取り上げましょう。プロ・ライフ資料のビデオ『ピル先進国・英国からの警告』や小冊子『ピル』はピルについての危険をあなたが認識する助けとなるでしょう。

インターネットを開いて、<http://www.japan-lifeissues.net>の避妊の項目を見ると、もつと沢山の避妊に関する知識を得ることができそうです。厚生労働省の外郭団体が、私たちの税金を使って、このような本を作り、子ども達の体を危険に追い込むことはしてほしくないと思います。

(日本プロ・ライフ・ムーブメント)